

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795800164		
法人名	有限会社サンビック		
事業所名	グループホームサンビック2 (2階)		
所在地	大阪府大阪市平野区加美北1丁目22番29号		
自己評価作成日	平成26年2月10日	評価結果市町村受理日	平成26年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成26年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ひとりひとり、みんな家族」をコンセプトにご利用者様一人一人の人生が輝くように！自分で出来る喜び、自分らしさ、生き甲斐を大切に、自らの親と共に過ごす気持ちでケアを提供しています。この地域で今何が必要かを常に考えニーズを把握する努力をしています。又、当ホームのケアで最も大事にしているのは、個別性であり、一人一人のペースで暮らしていただける様に心掛けています。日々ご自身の役割を持っていただくことで、生き活きた時間を過ごして頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者は平成18年3月、「一人ひとりの人生が輝くように」との思いを込めて有限会社サンビックを設立してグループホーム「サンビック」を立ち上げ、平成22年11月、「サンビック2」を開設した。当ホームは自己所有地に4階建ビルを新築して2・3階を使用し、1階に小規模多機能型居宅介護事業所を併設している。経験豊富な施設長は地域と共にある事業所として意欲的に業務を改善し、地域集会所を借りてイベントと同時に運営推進会議を開催する、近くのコンビニや8階建てビルを災害別(火災・水害)の避難場所として話し合いが出来ている。またほとんどの職員が常勤で、職員教育も徹底され会議録や介護記録なども良く整備されている。協力医療機関は代表者の子息であり、その人らしい暮らしを尊重して個別の希望に対応があり、利用者は安心の我が家としてゆっくり暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で運営理念を唱和し理念の統一を心がけている	「理念」は玄関ホールに掲示し、パンフレットにも記載している。「介護サービスの質」と「経営の質」の追及を怠らず長く地域に貢献できる事業運営を目指す、として実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者様の体調に応じて散歩に出かけ、地域の方と交流できる様に努力している	町会に加入し、地域集会所のふれあい喫茶に週1回出かけたり、周辺道路の散歩で地域住民と交流しているが、事業所を地域の社会資源とする活動が見えない。	イベントには、地域の方々を招待するような、地域に開かれた企画を取り入れるような姿勢を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、認知症の理解や支援を活かせる様に心がけている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、入所者様の状況報告や行事イベントを報告し意見交換を行っている	運営推進委員会の出席者確保のため、2ヶ月に1回地域集会所を借りイベント後に開催している。家族、町会代表、民生委員、地域活動協議会委員、地域包括支援センターが参加し活発な意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者と定期的に連絡をとり、協力関係を保っている	生活保護担当者や介護保険担当者に報告をする機会に日頃の相談をし、月1回、グループホーム連絡会にも出席して協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入所者様が自由に出入りできるようにしている。又身体拘束をしないケアを職員全員が行っている	職員は身体拘束の弊害を理解し、マニュアルに基づいて、定期的な研修を実施している。道路状況により玄関は施錠しているが、毎日の散歩でストレスを溜めないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時など身体に傷等がないか確認するなどし虐待防止について職員全員が理解を深め努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	金銭管理が困難な入所者に「あんしんさぼーと」を利用してもらい調節を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間をとり入所者、家族様には難しい専門用語をあまり使わず、わかりやすく説明し同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族様に出席してもらい意見や要望を聞き反映させている	家族の来訪時に、また遠方の家族へは連絡帳のコピーを送り電話をかける等の配慮をし、意見を聞いている。意見要望は職員会議で検討し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議を定期的に行い、意見交換を行って改善に取り組んでいる	毎日のスタッフミーティング、週1回のフロア会議、月1回のリーダー会議等職員が意見を述べる機会を設け、個人面談もして、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の実績や勤務状況を把握し昇給を検討している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の得意不得意を把握しその人に合った研修を受けてもらいスキルアップに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	意見交換、情報交換の為 同業者との連絡会、食事会に定期的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ニーズの傾聴に努め一日も早く安心して暮らせるよう信頼を得るようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い、要望がある都度傾聴し安心してご本人のケアを託されるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族様に見学に来てもらい、グループホーム以外のサービスも含め説明し必要なサービスを見極められるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事作業等を一緒に行い手助けしてもらったと感謝の言葉と姿勢を示し信頼を得ようと務めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の状況を来設ごとや月一回の家族様への連絡帳に記入し絆が絶えないように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や馴染みの場所など入所者様が大事にしている部分は継続できるように外出を毎日行っている	利用者の生活歴から、馴染みの人や場所を把握して友人・知人との交流や、個別対応で前の住居の近所の店に出かけるなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者様同士の関係を職員が把握していて、関係が悪くならないような空間作りをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用契約が終了しても、関係性を大切に、またいつでもサービス利用を開始してもよい状態にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活での難しさはあるが、暮らし方等は本人様希望が少しでも取り入れやすくなるように努めている	利用者と信頼関係をつくり、日頃の関わりの中で想いや意向を聞いて介護記録を参考にし、意向に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報や生活記録など家族様から得た情報を記入し、変化があればその都度対応し、職員全員が閲覧できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の朝礼、終礼、申し送りや定期的に行っているミーティングで職員全員が把握できる様努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やケアカンファレンスの開催し良いケアができるように介護計画を作成している 職員の意見やモニタリングを行い介護計画に反映している	介護計画は短期で3ヶ月、長期で6ヶ月の見直しをしている。事業所独自のケアプラン確認書でモニタリングをして家族や必要な関係者と話し合い介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践、結果、気づき、工夫をできる限り記録しているが、職員間では口頭申し送りが少しある		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に対応し適格な支援ができるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアを活用し、体操などを取り入れ支援している 又、近くの公園や喫茶店などに行き地域で楽しく生活できるように工夫をして支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様にも協力してもらい、本人様の希望する病院で受診できる様努めている	利用者や家族の希望により殆どが協力医療機関をかかりつけ医とし、週1回内科の往診がある。従来の専門医や病院の検査受診は同行支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時は併設の事業所の看護師に相談し対応してもらえる様に連携を取っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃から医療機関、ソーシャルワーカーと連携をとって緊急時に備えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、医療機関と連携し本人様、家族様と方針共有を図って支援している	契約書に、「訪問看護ステーション及び協力医療機関等と連携し、重度化や看取りの必要性が生じた場合における対応指針を定め、あらかじめ利用者及び家族等に同意を得て必要な援助を行う」として方針を共有している。 終末の見取りも経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを用意しているが、実践力を身に付けていない職員もいる為定期的に勉強会を取り組むよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署員の方に来て頂いて消防訓練、避難訓練、通報訓練を行っているが、津波訓練などの訓練はできていないので今後予定している	消防署の指導で年2回消防避難訓練を実施している。自治会防災会議に参加して、火災の場合は向かいのコンビニ、水害の場合は近くの8階建てビルにと、避難場所の協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄時は特に気をつかい又言葉づかいなどは、プライバシーを傷つけないよう努めている	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう、会議や研修を重ね配慮ある介護に努めている。全職員は個人保護誓約書を提出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか表現しにくい利用者様には、職員から声をかけ、入所者様が選択できるようわかりやすい説明を行うなど工夫をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないように、利用者様の希望やペースを把握し寄り添ったケアを心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回訪問理美容に来てもらう支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に手作り昼食をしたりなど楽しむ機会をつくっている	給食事業者から副食(チルド)が配送され、ご飯・汁物はホームで作っている。毎日検食記録を取っている。時には利用者の希望により買物に行き、手作り食事会をして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入所者様様のADL状態や体調に合わせて減塩や水分管理など行い体調管理できるように努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがい、義歯洗浄は毎日行って清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所者様の排泄のパターンを把握し、誘導や声かけを行い自立に向けた支援をしている	管理記録や個人別介護記録で、排泄習慣を把握してさりげないトイレ誘導により、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や乳製品など提供したり、毎朝ラジオ体操に参加してもらえるように声掛けを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の体調に合わせて楽しんで入浴を行って頂ける様に努めている	週2～3回、一人ひとりお湯を入れ替え、希望の時間帯にゆっくりと入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝は利用者様の生活習慣に合わせて安心できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとり専用の服薬ファイルを作りいつでも確認できるようにし、服薬ミス無くすように職員は意識して努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の趣味などを理解しその日に合ったレク(カラオケ・工作)等を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様が行ってみたい所などアンケートをとって時間を調節し外出している	天気の良い日は周辺道路の散歩に出かけている。利用者の個別の希望により、近くの公園や神社、スーパーへ買物、大衆演劇場の観劇などの外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる利用者様以外の方は【あんしんさぽーと】を活用するなどの支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される入所者様はいつでも家族や友人と連絡がとれるようにフロアに電話を設置している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾りをかえたり、温度調節は朝、昼、晩調節するなどの工夫をしている	リビングは手狭な感がある。しかし利用者が近寄り話し合う姿が見られ、壁に献立表や職員への連絡事項があり、廊下にパソコンに取り込み編集した行事の写真がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子の配置を工夫し気の合った入所者様同士が過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所者様の好みに合わせて、飾りつけをしたり、家具の配置などは、入所者様と相談しながら決めている。	居室は、洗面台と小筆筒が設置されている。仏壇やベット、家具などを持ち込み、写真や小物を飾り居心地よく暮らす工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所はわかりやすく表示している。又フロアや通路には手すりを設置し安全に過ごしてもらえるように工夫して自立した生活がおくれるように努めている		